

常松大谷遺跡 つねまつおだにいせき

& 常松菅田遺跡 つねまつすがたいせき

捨てたのは誰…？

上から見ると…



写真1 土器の出土状況



写真2 石製の紡錘車



写真3 竪穴建物と土器群

常松大谷遺跡では、須恵器の坏や蓋、土師器の甕や高坏、移動式の竈などのたくさんの土器が谷間から出土しました（写真1の灰色の土の部分）。また、糸に撚りかけるときに使用する石製の「紡錘車」も見つかりました（写真2）。この土器群の近くには、現在調査中の竪穴建物があります（写真3）。もしかしたら、この住居に住んでいた人たちが捨てたものかも…？

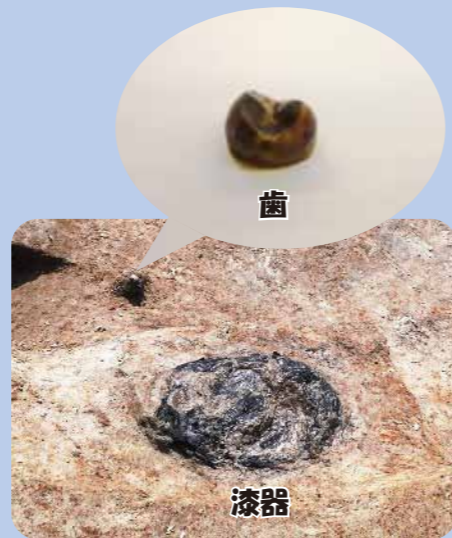


下坂本清合遺跡 しもさかもとせいごういせき

漆器碗に愛をこめて…

鎌倉時代後半～室町時代の層を調査しているときに見つけた、長さ1m、幅0.7mの楕円形の穴の底から、人の歯が2個出てきました！そしてとなりには、なにやら円形の黒いかたまりが。

穴の中に残された、歯と謎の黒いかたまり…。これらからどんなことが考えられるでしょうか…！



歯

漆器

まず気になるのが、穴の大きさに比べて、そこで見つかったものが小さいということ。もしかすると、ここにはもともと人の全身が埋められていたのかもしれませんが。そして、骨が腐ってなくなった後、腐りにくい歯だけが最後に残った可能性があります。

次に黒いかたまりですが、これは、漆を塗った木製のお碗が朽ちて、漆膜だけ残ったものでした。よく見ると赤色の模様も残っていました。

この穴はお墓で、亡くなった人の大事なお碗を、一緒に埋めてあげていたのかもしれないね。



鳥取西道路の遺跡を掘る！

第64号 2014年8月21日

遺跡を掘るとたくさんの穴が見つかります。こうした穴の多くは実は建物の痕跡です。建物の痕跡にはいろんな種類がありますが、なかでもたてあなじゅうきよ ほったてばしらたてもの 竪穴住居跡と掘立柱建物跡が代表的です。今回はこの2種類の建物跡について紹介します。



「穴」から読み取る建物のすがた

遺跡の建物跡で一番有名なのは竪穴住居跡でしょう。地面を掘りくぼめた大きな穴（竪穴）の中に、小さな穴が並んでいます（右写真）。小さな穴に柱を立てて建物の骨組みをつくり、その上にカヤなどをふいて屋根にします（右イラスト）。竪穴住居跡は、日本列島の多くの地域で、主に縄文時代から奈良時代ごろまで（約10,000～1,200年前）の長い間、住まいとして利用されていました。



大山町茶畑第1遺跡の竪穴住居跡 竪穴住居の復元イメージ (弥生時代おわりごろ)



松原田中遺跡の掘立柱建物跡 (古墳時代終わりごろ)



高床倉庫の復元イメージ

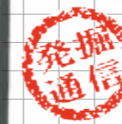
鳥取西道路の調査でたくさん見つかったのは掘立柱建物跡です。普通の掘立柱建物跡は、柱を埋めるための穴が規則正しく長方形に並んでいます（左写真）。掘立柱建物跡としてひとまとめに呼んでいますが、もとの建物のすがたは、高床倉庫（左イラスト）や地面をそのまま床にした平地建物、屋根だけの小屋など、いろいろだったようです。

今は穴がたくさんあるだけにしか見えない遺跡ですが、もともとはこうした建物がいくつも建っていました。穴の上に建物のすがたを想像して遺跡を見れば、大昔のムラの情景が目には浮かんでくると思います！

(公財) 鳥取県教育文化財団 調査室

〒680-1133 鳥取市源太12番地

TEL: 0857-51-7553
FAX: 0857-51-7550
メールアドレス: tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com



お盆を過ぎて暑さが和らいできましたが、発掘現場はまだまだ熱い！！調査が佳境を迎えて、続々と成果が上がっています。夏が終われば現地説明会シーズン。今年もいろんな遺跡の調査成果を見ていただけると幸いです。また、本紙やHPでご案内しますね。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

大桷遺跡

だいくいせき

流路の中から
こんにちは♪

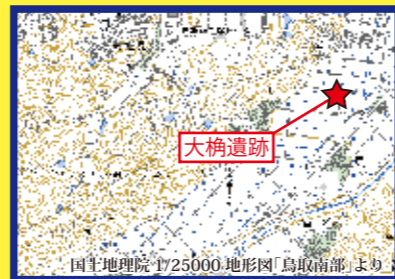
ここ最近の大桷遺跡では、地層の堆積状況を確認して今後の調査の方針を考えるためのトレンチ掘りを行っています(写真①)。その結果、調査区の大部分に平安時代(約1,100年前)頃の川があることがわかってきました。

ある日、その川にあたるトレンチの中でスコップをふるっている作業員さんが笑顔で手招きしているので近寄ってみると…なんと人の形をした薄い木の板が!!(写真②)

この板、実は「人形」という「形代」の一つで、奈良時代や平安時代の水辺のおまつりに使われた、「おはらい」の道具。

似た風習として、用瀬町の「もちがせ流しびな」という無病息災を願って人形を川に流すおまつりがあります。

この「人形」には、この土地に住んでいた人のどんな想いが託されたのでしょうか。



→写真①
トレンチ掘りの様子

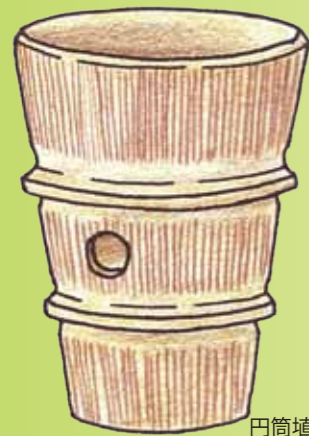
↓写真② 人形
裏面には顔のようなものが墨書きされていました!!



松原田中遺跡

まつばらたなかいせき

集落から埴輪が出土! そのワケは?



円筒埴輪の模式図



上: 出土した埴輪(破線の円の箇所には円形スリ孔の一部が残っています。埴輪の大きさから、比較的小型の埴輪のようです)

左: 松原田中遺跡から東側の松原古墳群(白丸内)をのぞむ

2区の包含層中から古墳時代後期(6世紀)の円筒埴輪の破片が数点見つかりました。

円筒埴輪とは古墳に立て並べられた土管状の焼き物ですが、なぜ古墳ではなく集落跡から見つかったのでしょうか?

その答えは、周辺の遺跡にありそうです。というのも、これとよく似た埴輪が遺跡の東側丘陵部にある松原古墳群(古墳時代後期)でも見つかったからです。

見つかった埴輪は小さなかけらですが、松原田中遺跡に暮らしていた人々が、松原古墳群の造営に深く関わっていたことを示すものかもしれません。今後、詳細に比較検討をしていく必要があります。



高住宮ノ谷遺跡

たかすみみやのたにいせき

空から地上を見下ろす瞬間



2区全景写真の撮影のため、フィルムカメラと小型ビデオカメラを搭載したラジコンヘリを空へ飛ばしました。手元のモニター画面を見つめながら、オペレーターの方と確認をとりつつ、撮影の位置を定めていきました。そうして撮った一枚が右の写真です。下部のブルーシートの上側(北側)が2区で、後方には湖山池や青島、さらに後方には日本海がおぼろげながら見えます。

調査の様子だけでなく、南側上空から遺跡の立地条件や周辺の環境などの情報を得ることができました。

調査区遠景(南から)



高住牛輪谷遺跡

たかすみうしわだにいせき

しゃんしゃんしゃんと鈴がなる♪



横から見ると丸く見えますが、上から見ると八角形をしています。



高住牛輪谷遺跡で、またまた珍品が出土しました!!

なんと、古墳時代終わり頃(約1,400年前)の「鈴(馬鈴)」です。全国的にたくさん見つかるものではなく、県内では米子市の宗像1号墳(同じく古墳時代終わり頃)で出土しているくらいの大変珍しいものです。

一般的には馬につけて鳴らすものと考えられていますが、他の馬具(馬につける道具類)と一緒に出土しない例もあって、まだはっきりと用途がわかっていないわけではありません。

もしかしたら、しゃんしゃん傘踊りのルーツがここ牛輪谷だったりして。。。^^;

